



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099（226）5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



聖年に寄せて（6）

聖母被昇天祭と恒久平和

鹿児島教区司教 中野 裕 明

教区の皆さま、お元気で
しょうか。

毎年、8月15日は聖フラ
ンスコ・ザビエルによるキ
リスト教伝来祭、終戦記念
日（日本司教団主催・平和
旬間最終日）、聖母被昇天
祭の3つの意向が重なりま
す。

それで今回は、聖母被昇
天祭と戦後80年の節目に当
たる恒久平和祈念日につい
てお話しします。

1950年11月1日、教
皇ピオ12世は「無原罪の神
の母、終生処女であるマリ
アがその地上の生活を終わ
った後、肉身と靈魂とともに
天の栄光に上げられたこと
は、神によって啓示され
た真理であると宣言し、布

告し、定義する。」（『カ
トリック教会文書資料集』
3903番参照）

この布告の内容は何世紀
も前から信者の間で信じら
れていた伝承ですが、教皇
ピオ12世は第2次世界大戦
終結後5年を経て、信ずべ
き教義として公布しまし
た。それは悲慘な戦争を2
度と繰り返さない恒久平和
への悲願として公布された
ものです。

しかし、戦後80年を経た
現在、世界情勢は不安定さ
を増しています。そんな
中、今一度、キリスト者と
して、「平和を実現する
人々」（マタイ5・9）に
どうしたらなれるか考えて
みます。

聖パウロの言葉を聞きま
しょう。

「わたしたちは信仰によ
って義とされたのだから、
わたしたちの主イエス・キ
リストによって神との間に
平和を得ており、このキリ
ストのお陰で、今の恵みに
信仰によって導き入れら
れ、神の栄光にあずかる希
望を誇りにしています。そ
ればかりでなく、苦難をも
誇りとします。わたしたち

は知っているのです、苦難
は忍耐を、忍耐は練達を、
練達は希望を生むことを。
希望はわたしたちを欺くこ
とがありません。わたした
ちに与えられた聖霊によつ
て、神の愛がわたしたちの
心に注がれているからで
す。」（ローマ書5・1～
5）

この文章は2つの点で私
たちの気を引きまします。
一つ目は、この文章の内
容は聖母マリアの人生を思
い出させる、ということデ
ス。

マリアの生涯は信仰によ
って神のみ旨を受け入れ、
忍耐をもってこの世を生き
抜き、神の栄光に希望を託
した生涯でした。わたした

ちも彼女に倣いたいので
す。
二つ目は、「希望は私た
ちを欺かない」という文言
です。
これは「2025年通常
聖年」のタイトルです。今
年の復活祭の翌日に帰天さ
れた教皇フランシスコの選
んだ言葉です。

マリアさまの精神と通
じ、彼女を深く崇敬してい
た教皇フランシスコは、自
らの希望で、聖母マリアに
捧げられた「サンタ・マリ
ア・マッジョーレ大聖堂」
に葬られています。

最後に、一般によく言わ
れる「恒久平和」という言
葉について聖アウグスチヌ
スの言葉を紹介したいと思
います。

彼は言っています。
「2種の愛が二つの国を
つくつたのである。すなわ
ち、この世の国をつくつた
のは神を侮るまでになつた
自己愛であり、天の国をつ
くつたのは自己を侮るまで
なつた神の愛である。」
（服部栄次郎訳『アウグス

日本カトリック平和旬間
＝8月6日～15日＝

1981年、聖ヨハネ・パウロ2世教皇は
広島で、「過去を振り返ることは、将来
に対する責任を担うことである」と述べ
られました。戦争を振り返り、平和を思
うとき、平和は単なる願望ではなく、具
体的な行動でなければなりません。そこ
で日本のカトリック教会は、その翌年、
もっとも身近で忘れることのできない、
広島や長崎の事実を思い起こすのに適し
た8月6日から15日までの10日間を「日
本カトリック平和旬間」と定めました。

「平和旬間」に広島教区と長崎教区で
は、全国から司教をはじめとして多くの
信者が集まり、「平和祈願ミサ」がささ
げられます。各教区でも、平和祈願ミサ
や平和行進、平和を主題とした映画会、
講演会、研修会、平和を求める署名など
が行われます。

キリスト教伝来記念祭ミサ
侍者募集（8月15日）

対象：青年・壮年（男女）
当日14時30分、ザビエル教会主
聖堂に集合
※自分用のアルバを持参のこと

今年のキリスト教伝来記念祭

開催日…8月15日（金）

場 所…鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂

内 容

- ①ルチアノ・マゾツキ神父（聖ザベリオ宣教
会）講話「ザビエルと諸宗教対話」（16時
16時45分）
- ②ゆるしの秘跡（16時～17時）
- ③聖母被昇天ミサ（17時）司式…中野裕明司教
- ④茶話会（ミサ後）

ミサ依頼の超自然的価値

ミサの規定についてコンベンツスで確認

鹿児島教区で働く聖職者
たちが集い重要な問題を検
討、分かち合うコンベンツ
スが7月8日（火）教区本
部であった。

教区本部には中野司教を
はじめとして19人の司祭と
5月に叙階された久山助祭
が駆けつけたほか、静養中
のテヨドル・メニツヒ神父
を見舞うために鹿児島に來
ていたレデンプトル会日
本管区長の井上武神父も
オブザーバーとして出席し
た。遠距離であることや仕

事の都合で会場に來ること
ができずオンラインで出席
したのは7人だった。

会議ではまず本部からの
報告があり、霧島彬神父か
ら体調を崩している永山幸
弘神父と桃蘭淳一郎助祭の
様子が伝えられた。また青
年の祝祭（ローマ・7月27
日から8月5日）に同伴す
る霧島神父が、教区からの
参加者2人のためにいくつ
かの小教区で行われた参加
費援助献金について報告し
たほか、今年の「キリスト



教伝来記念祭」（8月15
日）の内容が公表された。
それによると今年のキリ
スト教伝来記念祭は、鹿児
島カテドラル・ザビエル教
会で17時から聖母被昇天の
司教ミサがささげられ、ミ

サの始まる1時間前からは
「ゆるしの秘跡」を受けら
れる。また16時からは、ザ
ベリオ宣教会司祭がかつて
鹿児島教区で働き、種子島
教会の建設に尽力したルチ
アノ・マゾツキ神父の講話
も予定されている。

本部から報告の後、聖
職者省から今年の4月13日
に出された「聖なるミサの
意向に関する規律について
の教令」（セクンドゥム・
プロバトゥム）について、
霧島神父から説明があつ
た。そこでは主任司祭に課
せられた主日の「自己に委
ねられた民のためのミサ」
の義務とミサ奉納金を受領
した意向はそれぞれ別個に
ミサをたてるという原則の

上で、例外措置としての
「意向合併」のミサ回数
の制限が今回の新規定で撤廃
されたこと、同時に意向を
合併する際の条件は従來通
り維持されることが確認さ
れた。さらに信徒への丁寧
な説明を通してミサ依頼と
奉献金の持つ超自然的価値
の再発見を促すことの重要
性が指摘された。

その後は中野司教から経
常収支が大幅な赤字となつ
ている教区の財政状況に関
して、今後は「司祭給与分
担金」のような制度の導入
も検討しなくてはならない
との説明があり、諸案を検
討した上で、秋の教区評議
会のテーマとした旨が告
げられた。

信徒総数8千人を割る

2024年末の鹿児島教区教会現勢報告から

2024年12月31日現在の鹿児島教区の信徒総数は男性3036人、女性4840人の合計7876人となっており、ついに8000人を下回った。因みに2023年末の統計では、信徒総数は8120人だった。昨年末で居所の分らない信徒は全体の8%に当たる642人、2024年中に亡くなった方は100人、受洗された方は41人だった。

2015年から10年間の統計を見て分かるのは、10年の間に亡くなられた信徒は1138人、洗礼を受けた方は555人で、帰天された方が信者の誕生を583人上回っている（※信徒総数が1万人を超えていた1980年代の洗礼者数は毎年300人を超えていた）。これに加え転出などで教区を離れて行かれた方、何らかの理由で小教区から除籍された居所不明者などが多くいたことから8000人を割ってしまったと推測されるが、実際のところ主任司祭たちが長期間居所不明だった信徒を除籍しなければならなかったことは、ある意味理にかなっており、7876人という信徒数は現実的な数字だと思われる。

そんな中、気になるのは主日のミサの参列者の数である。2015年には25・4%だった参列者の比率が急激に下がっている。もちろんコロナ禍（2019年から）の影響を受けて2019年は23・2%となり、

2020年からの3年間は17%を下回っている。これは新型コロナウイルス（コロナ）蔓延を防ぐために主日のミサにおける三密を避けての措置が取られたためで仕方ないことと思われるが、コロナが5類に移行（2023年）され一時的に18%と若干増えてきたが、2024年には17%と下がってしまった。コロナ禍の間に信徒のミサに対する考え方に変化があったのかもしれない。（※ミサ参列者の割合は、小教区の信徒総数から居所不明者を除いた数で、小教区から報告のあった主日のミサ参列者数を割ったもの。）

ミサ参列者を地区別に見てみると6つの教会がある鹿児島市内のミサ参列者は18・5%。種子島は77%、始良地区（始良、国分、溝辺）は21・6%、大隅地区（鹿屋、垂水、志布志）24・9%、北薩地区（出水、阿久根、入来、大口、川内）17・8%、南薩地区（指宿、加世田）17・6%、奄美大島地区15・16%、徳之島地区（母間、和泊）15・2%となっている。因みに奄美市内（大笠利、名瀬聖心、古田町、小笠、大熊）のみでは14・7%、沖永良部の和泊を除いた徳之島だけでは10%だった。

地区ごとに高齢化や対象となる教会の規模に差があるため、算出された数字がふさわしいのか判断が問われるところであるが、主日に信徒が教会に集まるのが

困難な時代になっているのが分かる。年代別の信徒数なども調査できれば、高齢化の様子なども把握できて、より小教区の実態がつかめるのかもしれない。

今後の教会のことを考える際に気になるのは、入信者の数や教会学校、勉強会などである。昨年末で洗礼につながらる入信者がいるのは6つの教会で12人。幼稚園児、小学生を対象にした教会学校を開いているのは13小教区で、その数は95人

となっている。しかしながら中学生、高校生対象になると4つの小教区でそれぞれ21人、15人となっている。クラブ活動や塾通いで忙しい子どもたちの実態とそれに対応しきれていない教会側の様子がうかがい知れる。

ただ大人たちを対象にした勉強会が8つの小教区で実施されており、その数が85人となっている。信徒対象なのか一般市民対象なのかは定かでないが、いずれにしてもかすかな希望となっていると言えると思う。今後主日のミサへの参列は伸びて行きづらいと思われるが、小教区で高齢者の送迎について話し合うなどする必要があるのかもしれない。

鹿児島司教区 教会現勢報告

2024年12月31日現在

	信徒総数			信徒の動向			ミサ参列者					教会学校				
	男	女	合計	居所不明	死亡	洗礼	主日	復活祭	降誕祭	入信者	幼・小学	中学	高校	勉強会		
始良	97	118	215	7	2	1	45	70	80	1	6	0	0	0		0
指宿	30	66	96	4	0	1	20	40	47	1	0	0	0	0		4
加世田	65	64	129	0	0	0	19	35	31	0	0	0	0	0		5
鴨池	207	292	499	48	5	0	100	100	230	0	10	0	0	0		0
ザビエル	338	667	1005	271	10	1	120	231	316	3	9	8	4	15		
谷山	310	461	771	32	7	6	104	211	195	0	4	0	2	0		0
種子島	21	36	57	21	0	0	28	50	59	0	0	0	0	0		0
玉里	94	130	224	21	3	4	40	60	80	0	4	2	0	0		0
溝辺	16	13	29	0	0	0	8	12	0	0	0	0	0	0		0
紫原	52	84	136	8	0	2	40	70	90	0	21	0	0	4		
吉野	117	165	282	111	0	1	45	50	70	0	0	0	0	0		0
鹿屋	101	153	254	0	1	2	55	65	85	0	0	0	0	0		0
国分	71	103	174	4	1	1	35	40	50	0	2	0	0	0		0
志布志	35	63	98	0	0	0	25	40	40	0	0	0	0	0		0
垂水	5	6	11	10	0	0	7	10	13	0	0	0	0	7		
阿久根	13	26	39	4	1	2	8	8	8	0	0	0	0	0		0
出水	62	99	161	0	0	0	23	35	79	0	0	0	0	0		0
入来	30	59	89	0	0	3	20	24	38	0	3	0	0	0		0
大口	41	84	125	0	7	0	20	35	45	0	0	0	0	3		
川内	94	184	278	9	1	1	50	70	80	0	4	0	0	0		0
大笠利	202	292	494	52	6	1	85	90	110	0	0	0	0	0		0
小笠	106	176	282	0	4	0	25	30	30	0	0	0	0	0		0
古仁屋	24	75	99	0	5	0	18	20	25	1	4	0	0	0		0
瀬留	126	194	320	0	9	0	55	58	79	0	0	0	0	0		0
大熊	173	242	415	0	9	5	100	100	120	0	5	2	3	0		0
名瀬聖心	268	443	711	38	9	5	80	140	195	3	20	9	6	35		
古田町	205	290	495	2	13	2	50	60	100	3	3	0	0	1		
母間	120	228	348	0	5	3	35	65	70	0	0	0	0	11		
和泊	13	27	40	0	2	0	6	9	10	0	0	0	0	0		0
合計	3036	4840	7876	642	100	41	1266	1828	2375	12	95	21	15	85		

教区経済問題評議会

6月29日（日）午後、教区本部を会場にインターネットも利用して教区経済問題評議会が開催された。会議では昨年度の「教区会計収支計算」が報告され、逼迫する教区会計の今後についても話し合いがなされた。

今回の会議では特に「特定預金」の資料が準備され、中野司教が過去10年における特定預金の取崩し状況を説明し、そのうえで来年度以降はそれを取崩しての予算化が難しいことが報告された。このような現状から収入増加について評議員からも信徒負担へのお願い、司祭寄付金、唐湊の旧司教館の利用などについて様々な意見が出された。教区財政立て直しについては10月に開催予定の教区評議会においても取り上げられることになっている。

（報告・泉浩二神父）

CHÚA NHẬT BẠN ĐI ĐÂU?

Đã khi nào bạn được hỏi: "Tại sao bạn là người Công giáo mà chủ nhật không đi lễ? Chắc hẳn ai cũng có lý do chính đáng để trả lời cho việc mình không đến nhà thờ vào ngày chúa nhật. Có lẽ cũng chẳng mấy ai quan tâm lý do bạn không đi lễ có chính đáng hay không, vì đó là tương quan giữa bạn với Thiên Chúa. Thông thường, một người con khi đi học, đi làm xa hoặc đã lập gia đình...thì nhiệm vụ về thăm ông bà cha mẹ thường xuyên vào những dịp lễ tết là lẽ đương nhiên. Tương quan giữa ta với Thiên Chúa dường như cũng có gì đó tương tự. Việc đến nhà thờ tham dự thánh lễ là bổn phận của người tín hữu, là dịp bạn thể hiện niềm tin của mình. Thật vậy, đức tin không có hành động, thì quả là đức tin chết (Gc 2,11). Có nhiều cách thể hiện niềm tin, việc tham dự Thánh lễ là cách thể hiện rõ ràng và cụ thể cho Thế giới ta đang sống về niềm tin của mình. Sống xa gia đình, xa quê hương là một thách đố cho niềm tin non nớt của mỗi người chúng ta - không có ai ở gần nhắc nhở, chẳng được ai thúc giục.

Nó là thách đố nhưng cũng là cơ hội để bạn chuyển từ đức tin thụ nhận qua đức tin cá vị - không còn: bị nhắc nhở, la rầy, ép buộc nhưng là tự nguyện đến với Chúa, tham dự Thánh lễ theo quy định của Giáo Hội, thể hiện niềm tin cá vị vào Thiên Chúa - Đáng bạn tin tưởng. Đừng đợi đến khi cuộc sống khó khăn, bản thân bất lực trước một cảnh huống nào đó, hay không còn có thể cậy nhờ vào con người trần thế thì lúc đó bạn mới tìm đến Thiên Chúa. Sao bạn không đến tạ ơn Ngài ngay lúc này, ngay lúc bạn đang đủ đầy, bình yên, hạnh phúc, thành công...Chắc chắn cái bạn đã có Ngài sẽ ban thêm cho để đời bạn đầy tràn chan chứa. Hãy nhớ rằng: Chúa luôn đợi bạn nên đừng ngại đến với Chúa. Hãy quảng đại đến với Ngài cho dù đôi khi ta chẳng hiểu gì. Hồng ân và quyền năng Thiên Chúa luôn vượt trên mọi rào cản ngôn ngữ và giới hạn của con người, chỉ là bạn có đến để lãnh nhận hay không?

Lucianhthly spp

聖母被昇天の祭日に思う

故・糸永真一司教のブログから

教区報では故・糸永真一司教が2006年から2015年に書かれたブログ「カトリック時評・折々の想い」から季節にあったものを紹介することにした。今月は聖母被昇天の祭日への思いを紹介する。

通い、小学校に入ると、学校帰りには教会に行つて「けいこ」（要理クラス）にあずかり、小学6年生までにカトリックの教え全体を『カトリック要理書』を通して学び、聖体や堅信の秘跡を受けた。

8月15日はいろいろな記念が重なっている。わたしにとつては聖母被昇天祭、終戦記念日、そしてザビエルの鹿児島上陸。周辺にはお盆もある。それらの中で、子供の頃から親しんできたのは「聖母被昇天祭」である。

カトリックの家庭に生まれ、幼児洗礼を授けられたわたしは、気がついた頃には家庭での「朝夕の祈り」、朝昼晩の「お告げの祈り」、「食前食後の祈り」があった。日曜日には、母に連れられてミサに

そうしたカトリック人生の中で、聖母マリアが魂も体も天に上げられた神秘を祝う聖母被昇天祭は、ひとしお思い出深くわたしの人生を彩ってきた。

子供の頃、夏休みの真ん中あたりにやってくるこの祝祭は、「かから団子の祝日」とも呼んでいた。かから団子とは、かからの葉で包んだアanko入りの米粉のまんじゅうで、聖母被昇天の前には、母に言われてかからの葉っぱを採りに行つたものだ。後で知るのだが、長崎の浦上あたりでは「ふくれまんじゅうの祝日」と呼ばれていたよう

永井隆博士の歌に、「もろたとバイふとかとば、ふくれまんじゅうのふとかとば」があるのを聞いたことがあるが、カトリック信者にとつて、聖母被昇天祭は、内的にばかりではなく、貧しいながらも食事や着物にまでも喜びをもたらす祝祭であった。

大きくなるにつれて、聖母被昇天祭で記念するキリ

スト教の神秘に広さ、深さを一層よく知るようになる。特に、尊者ピオ12世教皇によつて1950年11月1日に行われた「聖母被昇天の教義宣言」によつて、聖母被昇天の神秘が余すところなく解き明かされた。たとえば、この教義宣言において公布された使徒憲章「*Multifacisimus Deus*」（恵みあふれる神）の中から、次の一文を想起したい。

「永遠から、同じ一つの予定の決定によつてイエス・キリストに神秘的に結ばれ、汚れない者として懐胎され、全き処女のまま神の母となり、罪とその結果に完全に打ち勝つた、聖なる贖い主の気高い協力者、神の偉大な母マリアは、最後にその種々の特権の最高の完了として墓の腐敗を免れ、わが子と同様に死に打ち勝つて、体も魂も、天上の栄光に上げられるという恵みを受けた。そこでマリアは、永遠で不死の王であるわが子の右にいて、女王として輝くのである」

このように、人間となつた神の子キリストの人類贖いのみ業の神秘に不可欠の使命をもつ者として結ばれたマリアは、原罪の汚れを免れ、恩寵に満たされ、聖霊によつて処女のまま神の母となり、十字架上の御子の犠牲に完全に自己を一致させた故に、死の腐敗に服することなく、霊肉ともに天に上げられたのである。この偉大な救いの神秘全体を、わたしたちは聖母被昇天祭において記念し、祝う。つまり、聖母被昇天祭は「キリストの神秘」の中で祝うべきなのである。

そういう意味において、8月15日は、終戦記念も大事、ザビエルによるキリスト教の伝来も大事であるが、やはり、まずもつて聖母被昇天祭において記念し、祝われる神の神秘、神の御業こそ一番大事ではないかと思う。この神秘への信仰と希望があればこそ、ザビエル渡来も終戦も、そしてすべての人間的な出来事の真の意味と目的とを正しく認識し、記念すること

体験と、さらに深い関係を築くことができました。イエスさまも、初めて出会った時と同じ人格で、明るくておしゃべりでしたし、マリアさまとヨセフさまとの出会いもありました。

霊操を受けた時のわたしの魂は、「みだれた愛着」と「罪」にまみれ、神さまからは遠く離れていたように思っています。お祈りは絶えず行っていました。誘惑に對しての抵抗はとても弱いものでした。その結果が1年間の休学だったのですが、神さまが私を見放すことはありませんでした。

イグナチオの霊操②⑥

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥



イグナチオの観想体験

これまで少し分かりづら

その1年の最後のプログラムとして与えられた時でした。休学中のプログラムと言つても、厳しい罰といったものではなく、自分にとつてはまさに癒しの期間となりましたが、特に霊操によつて立ち直ることができました。

イグナチオの観想の特徴は、イエスさまと直接に人格的な出会いができることです。イエズス会出身の故フ



ンシスコ教皇さまが繰り返し重要視していた神との1対1の「あなたとわたし」という関係性を築くことができます。

わたしは霊操を受けるずっと前に、イエスさまと人格的な出会いをしていま

まだ社会で働いている時でしたが、1か月の間、仕事から帰つて新約聖書を読み続けている時でした。その

ていて信仰も感じられないような時でした。この人がイエスという方で、神さまであることははっきりと分かりました。これは宗教体験というものです。

イエスさまは、だれよりも、友だちや家族よりも身近な存在で、おしゃべりでした。この1か月の体験によつて、まず心が変えられ、「この人に従いたい」という思いにあふれ、神学校への道が開かれました。三十日間の霊操でこの追

会 と 催 し 8月

- 1日（金）ウオラ・ジョヴァンニ・ボスコ神父叙階記念（2005年）
- 3日（日）年間第18主日
- 4日（月）ルーシン神父命日（1994年）
- 5日（火）李秉徳神父霊名（聖ビアンネ）
- 6日（水）みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 7日（木）主の宴客
- 8日（金）小平卓保神父命日（2005年）
- 9日（土）宋診旭神父霊名（聖ドミニコ）
- 10日（日）里脇浅次郎枢機卿命日（1996年）
- 11日（月）聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 12日（火）年間第19主日
- 13日（水）ラバンの聖母祭・かんまちあ公園
- 14日（木）聖母マリアの被昇天
- 15日（金）キリスト教伝来記念祭・ザビエル教会・16時
- 16日（土）年間第20主日
- 17日（日）年間第21主日
- 18日（月）聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 19日（火）年間第22主日
- 20日（水）オリープの会・教区本部・14時
- 21日（木）坂本進神父命日（2022年）
- 22日（金）金照一神父叙階記念（1995年）
- 23日（土）鈴木康由神父霊名（聖アウグスティヌス）
- 24日（日）橋口啓悟神父霊名（聖アウグスティヌス）
- 25日（月）山口重義神父命日（2016年）
- 26日（火）オーバン神父命日（1988年）
- 27日（水）ペルリーニ神父命日（2008年）
- 28日（木）年間第22主日

【司教日程】1日阿久根教会（聖園老人ホーム）ミサ、3日諸宗教平和学習巡礼、10日ラバンの聖母祭、15日キリスト教伝来記念祭、21日大口明光学園

祈りの意向
【教皇の意向】共存
【日本の教会】平和

ベトナムの聖母「L'AVANG祭」

地元信者と外国籍信者で

開催…8月10日（日）

場所…かんまちあ公園

- ①12時 教区聖年巡礼指定教会「ザビエル教会」に集合しお告げの祈り、その後「かんまちあ」（鹿児島市浜町2番20）に移動
- ②13時「青年の集い」と聖歌練習
- ③15時「ロザリオの祈りと聖母行列」
- ④16時「主日のミサ（中野裕明司教主司式）」
- ⑤ミサ後 懇親会

奄美の教会巡礼と観光の旅

カトリック志布志教会 田下 幸次

通常聖年の今年、志布志市にある志布志教会（ベルナルディーノ神父主任司祭）では、奄美大島の教会巡礼と観光を計画し12人の信者で5月16、19日に3泊4日の日程で奄美へ行きました。

前日から桜島の大爆発で飛行機の離陸が40分も遅れましたが、無事に奄美空港に着きました。梅雨に入った奄美でしたが、天気は私たちが歓迎しているかのような上天気で一同安心しました。

最初に訪問した教会は昨年献堂された大笠利で、主任司祭の藤沢神父様の計らいでゴミサにあずかり、ミサ後は信徒会館で笠利の信者さんたちが準備してくださった島の食べ物で茶会となりました。85歳とは思えない藤沢神父様の素晴らしい歌声で楽しい時間を過ごすことができました。教会をあとにして奄美大島最北端の用岬を回ってホテルへ向かいました。

2日目は、奄美市内のマリア教会から住用の山間教会へ。さらに瀬戸内町に移



大笠利教会で記念撮影

動し、砂のない丸い石で埋め尽くされたホノホシ海岸見物、またグラスボートで海底見学を楽しんで古仁屋教会を訪ねました。

その後は瀬戸内町から奄美大島で唯一教会がない宇検村を通り、大和村へ。ここでは故西田正神父様が計画して献堂されたログハウスのような大和浜教会でゴミサにあずかり、フランチスコ朴稗奎神父様と3人の信者さんと一緒にお茶をして知名瀬教会へ。夕方は小宿教会での歓迎パーティに出席して、色とりどりの島料理に満足することでした。

3日目は、聖年の巡礼指定教会になっている聖心教会（栃尾泰英神父主任司祭）で9時からのゴミサにあずかり、ここでも信者さんたちと交流の機会がありました。婦人会の格別なおもてなしを受けて大感激でした。さらに巡礼は続き、浦上教会、瀬留教会、安木場教会、嘉渡教会、秋名教会、芦花部教会を訪問しました。そして夜は居酒屋へと足を運び盛り上がることでした。

最終日は、有屋の「ハンセン病療養所」にある和光園教会を訪問した後、大熊教会へ向かいました。大熊教会でも信者の皆さんから心のこもったおもてなしを受け、お茶をいただき、この教会の管理者であられる郡山健次郎名誉司教様を囲んで楽しいひとときを過ごすことができました。大熊教会をあとにしてからは龍郷町へ移動して、赤



信者さん宅で島料理に舌鼓

尾木教会、龍郷教会を訪問。お昼には龍郷の信者さん宅で島料理で昼食、大感激でした。それからさらに笠利町へ移動し、今回の巡礼の最後（21番目）の平教

会を訪問し、お祈りをし、空港近くの奄美パークに立ち寄りしました。そこでは田中一村記念美術館で奄美の自然をモチーフにした巨匠田中一村の絵画に感銘を受け、奄美空港から鹿児島への帰路につきました。

谷山宗教連盟発足式

4月23日（水）16時から「教会も神社もお寺も、その地域の方々の癒やしの場となり、安心して心豊かな生活を送ることができるよ

うに、また活気のある平和な街になるよう、協力し力を尽くす」ことを目標に掲げた谷山宗教連盟発足式が柏原（かしわばら）神社において三社三つの宗教団体合同で挙行されました。



各々司式時での正装（祭服着用）で最前列に並び、次に一般信者が続きました。司会進行は妙行寺の井上孝彌（たかや）副住職。司式は神式でなされ鶴田（あきひさ）明久宮司が務められました。鶴田宮司の朗々たる心に響く力強いお声や太鼓の音に感動し、三社の参加者一同も各々の祈りを心を込めておささげ致しました。カトリック教会参加者は、盛神父様と声を合わせて「主の祈り」を唱えました。

▼串木野教会に聖櫃
6月22日（日）、川内教会（福岡英雄神父）の巡回となつて串木野教会にこれまで置かれてなかった聖櫃が設置され、感謝のミサがささげられた。設置された聖櫃は、枕崎教会で保管されていたもので小さなもの。聖櫃がおかれたことで教会らしくなつたと喜ばれている。

思っています。
（カトリック谷山教会
シスター安藤克子）

「短信」



要理

もう随分昔のことになります。が、私の二番目の兄の結婚披露宴での出来事です。

その時代は新郎新婦が共に自分が赤ちゃんだった頃から現在に至るまでの写真をスクリーンに映し、その時々のエピソードを話すことが流行っていたようです。

兄の生まれたばかりの写真が映し出されると父は「ああ、そうだったな。この時は……と感慨深げに呟きました。しかし母は「あれは違う。あれは一番目の子だ」とボツリと言いました。それを聞いた父がばつが悪そうに俯いてし

神様と両親の深い愛について

よう。いくら自分はそう思っても、いくつになっても親からすれば自分の子は「子」のままのようです。

この母の愛を超えるものが神様の愛です。

だからこそこの愛に比べてどのような生きるのが皆さんは問われているとも言えるのです。人間にとって最も大きな罪とは自分に向けられた愛に反することなのです。

